

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表： 令和7年 2月 1日

事業所名 児童デイサービスえがお第3

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7	1		・活動によって部屋を区切ったり、個室を使用したりと工夫して行なっている。	
	2	職員の配置数は適切である	5	3			
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	3	3	2	・手洗い場の位置が高いため、踏み台を準備し、対応している。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	7	1		・毎月法人会議等で話し合う機会を設けたり、提案シートを活用している。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8				
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7	1			
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	6	2			
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8			・意見交換をする場は多く、会話しやすい職場だと思う。	
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	8				
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7	1			
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	7	1		・職員全員の案を元に作成している。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7	1			
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	7	1			
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	8				
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8			・毎朝の朝礼で、各自発表し、周知している。	

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	3	5		・その日の振り返りは難しい場合も多いが、職員間で声をかけ合ったり、朝礼時に周知し、情報共有をするように努めている。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8			・ケース記録、個別支援記録へ記入し、毎月ケース会議等で話し合っている。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	7	1			
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	5	3			
関係機 関や保 護者 との 連 携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8				
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	8				
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている					対象児童はいないが、受け入れをする場合は、連携を図っていきたい
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	6	2		・会議への参加の促しを積極的に行なっており、情報共有に努めている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	2	2	1		・対象児童がいる場合は、情報共有を行ない、連携を図っていく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	1			
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	3	2	・公園で一緒になれば、遊ぶこともある。	
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	1	3	2		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7	1		・送迎時や電話等で、こまめに子どもの状況を共有するよう努めている。 ・状況に応じて、保護者相談日も設けている。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	4	3	1		

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8				
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6	2		・保護者相談日を毎週設けている。 ・困りがあった際は、早急に日程調節し、保護者と話し合いの場を随時設けている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	2	3		
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	8				・申し出があった場合は、迅速に対応し、職員間で共有を行なう。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7	1		・SNSを通して、活動など事業所での様子を発信している。	
	35	個人情報に十分注意している	8			・撮った写真はこまめに消している。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6	1			
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	4	2	1	・外部の方を招いた活動を実施した。	
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	7	1			
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8				
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8			・研修等を通じて、職員間で支援のあり方の意見や考えを擦り合わせている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	6	2			
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	3	1		
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8			・毎月研修を実施し、参加出来なかった職員は会議録等で、情報共有に努めている。	

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果（公表）

公表： 令和7年 2月 1日

事業所名 児童デイサービスえがお第3

保護者等数（児童数） 7人 回収数 5人 割合 75%

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	5				
	2	職員の配置数や専門性は適切であるか	4				
	3	事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	3	2			
適切な 支援の 提供	4	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画が作成されているか	5				
	5	活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	5				
	6	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	2	3			
保護者 への 説明等	7	支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	5				
	8	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	4	1			
	9	保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	4	1			
	10	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	2	1	2		
	11	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	4	1			
	12	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	5				
	13	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	5				

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	ご意見	ご意見を踏まえた対応
	14	個人情報に十分注意しているか	5				
非常時等の 対応	15	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	3	2			
	16	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	4	1			
満足度	17	子どもは通所を楽しみにしているか	5			疲れてくると休みたがるが、元気な時は行きたがります。	無理の無いよう、保護者と情報を共有しながら、日程調整や本児が安心して過ごせるよう支援を継続しておこなっていく。
	18	事業所の支援に満足しているか	5			満足はしているが、出来れば学校の困り事への助言などの支援をお願いしたい。	保護者・学校・相談支援専門員等と情報を共有しながら支援を行ない、本児が安心して過ごせるよう努めていく。

○この「保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果（公表）」は、保護者等の皆様に「保護者等向け放課後等デイサービス評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。

公表

事業所における自己評価総括表(放課後等デイサービス)

○事業所名	児童デイサービス えがお第3		
○保護者評価実施期間	令和6年 4月 1日		～ 令和6年 11月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	7人(8人)	(回答者数) 5人(6人)
○従業者評価実施期間	令和6年 4月 1日		～ 令和6年 11月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8人	(回答者数) 8人
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 1月 25日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個室等が設備されているので、子どもの学習時や情緒が乱れた際のクールダウンの場として、対応が可能である。	活動の内容やイベント時などは、部屋の仕切りを取って広げたり、個室を使用するなど工夫して支援を行なえるようにしている。	今後も、支援をする中で、随時柔軟に環境を工夫して支援を行なっていく。
2	SNSを通じて、事業所の活動を掲載し、周知に努めている。	活動時の楽しそうな様子を文章と共に写真で伝えられるよう工夫している。	今後も継続して、事業所の活動配信を行い、保護者をはじめ、色々な方に事業所を知って貰えるように努める。
3	保護者相談日を設けており、担当者会議以外でも困りが出た際は、保護者や相談支援専門員等と連携を取れるようにしている。	保護者から相談の申し出があった際は、迅速に日程調整を行い、連携を取るよう努めている。また、送迎時にも子どもの様子等をしっかり伝え情報共有に努めている。	今後も引き続き、保護者や他の関連機関と情報共有に努める。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童の突発的な休みが多い。	事業所の支援内容や通ってもらう意図が、保護者に伝えきれていないと感じることがある。	今後も保護者や児童が安心して通える事業所作りに努めると共に、放課後等デイサービスでの取り組みを保護者や利用児童に伝えていく。
2			
3			

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表： 令和7年 2月 1日

事業所名 児童デイサービスえがお第3

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	8			
	2 職員の配置数は適切である	7	1		日によって職員の休みが重なると、支援する職員数に不安を感じることがあるため、職員間で日程調節を行ない休みが重ならないよう対応していく。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	7	1	・家具の配置等で空間の確保や工夫をしている。 ・個々の様子や活動に応じ、個室等を活用している。	・支援室、トイレ、廊下などはフラットであるが、玄関などは段差があり、手狭になっているので危険と感じることがある。子どもが靴を履く際には、職員が補助をする。またクッション等で危険防止に努める。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	8			
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	8		・毎月提案シート等で困り事などの共有をし、会議等で検討している。会議に参加出来ていない職員も会議録等で共有している。	
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8			
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	8			
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	7	1		
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8		事業所内研修は月1で実施。その他、研修等あれば随時参加している。	
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	8			
	11 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7			
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	7			
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	8			
14 活動プログラムの立案をチームで行っている	7		毎月職員間で案を出し、1人ひとりの案を大切に活動を組んでいる。		

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8		毎月職員にそれぞれ案を出してもらい、検討している。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	8			
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8		・予め個別支援の内容は上司に伝え、朝礼時に支援内容等共有している。 ・職員間のコミュニケーションが良く取れている。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6	1	・“振り返りの時間”は設けていないが、気づいた事や知り得た情報は、その日が無理な場合でも、翌日の朝礼や職員間で声を掛け合い、共有している。 ・意見を交換しやすい職場だと感じる。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8		・活動した内容や気づき等は、個別支援記録へ記入し、共有している。 ・毎月ケース会議で話し合っている。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	8			
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8			もう少し、現場で支援を行なっている職員も参加出来ればと思うこともある。今後状況をみながら参加出来る職員を検討し、参加していけるよう努める。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	7			
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				対象児なし
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				対象児なし
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	8			
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	8			
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3	1		
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	2	4		
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	1	4		
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8		・送迎時や電話等で、こまめに子どもの状況を共有するよう努めている。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	4	1		
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8			
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	7			
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7		・保護者相談日を毎週設けている。 ・困りがあった際は、早急に日程調節し、保護者と話し合いの場を随時設けている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	4		
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	8			
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	8			
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	8			
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8			
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	3		
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	8			
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8		・さまざまな災害を想定し、年2回避難訓練を実施している。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	8			
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている				対象児なし
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8		事業所内の研修を通して、毎月全体で共有している。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8		毎月事業所内で研修を実施し、事例等を用いて、検討・課題解決に努めている。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	6			

○この「児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）」は事業所全体で行った自己評価です。

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果（公表）

公表：令和7年 2月 1日

事業所名 児童デイサービスえがお第3 保護者等数（児童数） 11人 回収数人割合 100%

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	11					
	2	職員の配置数や専門性は適切であるか	8			3		
	3	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	11					
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	11					
適切な支援の提供	5	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	10	1				
	6	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	11					
	7	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	10			1		
	8	活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	10			1		
	9	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	5	1	1	4		
	10	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	11					
	11	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	11					
	12	保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）が行われているか	9					

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
保 護 者 へ の 説 明 等	13	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合 い、子どもの健康や発達の状況、課題に ついて共通理解ができているか	11					
	14	定期的に、保護者に対して面談や、育児 に関する助言等の支援が行われているか	10					
	15	父母の会の活動の支援や、保護者会等の 開催等により保護者同士の連携が支援さ れているか	2		1	8		
	16	子どもや保護者からの相談や申入れにつ いて、対応の体制が整備されているとと もに、子どもや保護者に周知・説明さ れ、相談や申入れをした際に迅速かつ適 切に対応されているか	11					
	17	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝 達のための配慮がなされているか	11					
	18	定期的に会報やホームページ等で、活動 概要や行事予定、連絡体制等の情報や業 務に関する自己評価の結果を子どもや保 護者に対して発信されているか	10					
	19	個人情報の取扱いに十分注意されている か	11					
非 常 時 等 の 対 応	20	緊急時対応マニュアル、防犯マニユア ル、感染症対応マニュアル等を策定し、 保護者に周知・説明されている。また、 発生を想定した訓練が実施されているか	9		1	1		
	21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、 救出、その他必要な訓練が行われてい るか	9			2		
満 足 度	22	子どもは通所を楽しみにしているか	11				特に上の子が喜んで行っ てくれています。	
	23	事業所の支援に満足しているか	11				行事等の動画なども あると嬉しい。	写真と同様に動画も撮れた際には 保護者へ送付する。

○この「保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果（公表）」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。

公表

事業所における自己評価総括表（児童発達支援）

○事業所名	児童デイサービス えがお第3		
○保護者評価実施期間	令和6年 4月 1日		～ 令和6年 11月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11人(12人)	(回答者数) 11人(12人)
○従業者評価実施期間	令和6年 4月 1日		～ 令和6年 11月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8人	(回答者数) 8人
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 1月 25日		

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	支援環境等は、個室を活用し、小集団の活動・個別活動など活動内容に応じて、支援する環境空間の工夫をしている。	その日の活動によって、職員間で声をかけ合い、支援環境の確保をして、子どもたちが安心して活動に取り組めるよう工夫している。	今後も継続して、環境確保の工夫を行なうと共に、困りが出た際には、その都度会議等で事案を検討して、より良い支援環境への提供に努めていく。
2	事業所内の業務改善や職員の支援の質の向上に努めている。	毎月、提案シート等で職員の困りや業務の改善内容があれば会議で検討して、少しでも働きやすい環境・職場になるよう努めている。	継続して、職員一人ひとりに寄り添いながら、子ども達が安心して事業所で過ごせるよう努める。
3	保護者や他の関連機関との情報共有は、送迎・電話・会議等で、密に連絡を取るよう努めている。	保護者には、送迎時や電話で子どもの様子など必ず伝達出来るようにしており、他の関連機関とは電話または会議等で、子どもの様子や課題について統一した支援を行なえるよう、連携を取るよう努めている。	保護者相談日等を活用しながら、その都度保護者や子どもの困りを少しでも改善できる様、他の関連機関を含め、連携して支援に努める。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員の休みが重なると、支援する際の職員配置に不安を感じることもある。	職員の体調不良等で突発的な休みもあるため、休みが重なり、職員数が少なくなることがある。	休みが重なる際は、職員間で日程調整を行い、なるべく休みが重複しないようにしていく。
2	担当者会議等、子どもの状況に精通した職員が参加していると思うが、もう少し現場で支援している職員も参加できると良いと感じる。	児童支援が優先になるため、会議に2名以上参加することが難しい。	日程調整時に職員の配置を確認すると共に、保護者相談日等は、現場で支援を行なう職員も少しずつ参加出来るように努める。
3	玄関の作りが特殊で、段差もあるため、児童が靴を履く際など対応に気をつける必要がある。	建物の作り上、段差は仕方がないが、未就学児にとって段差は大きいと感じる。	子どもが靴を履く際などは、職員の補助する位置やクッションなど怪我防止の対策をしていく。